

## 海洋學關係の標準的術語に就て

宇田道隆

昭和10年5月22日海洋學談話會特別會が開催せられ、(1)海洋學關係の術語に就き不便を感じ或は統一すべきもの或ひは改正を要するもの。

(2)海洋學關係の器具器械に就き新規考案及改良の欲しいもの。

(3)海洋觀測調査方法に就き改正すべき點等を題目として意見を述べ合つた。(會場は水産試驗場)

海洋學術語に關しては講演及會食終了後午後7時半~10時40分、物理關係は小倉伸吉博士を、化學關係は伊東孝一教授を、生物關係は丸久久俊技師を各々座長として會員相互熱心に意見を述べ合つた。其の結果は下記のやうな術語を標準として希望するといふ程度で、この會では決議をしたものでなく、將來よりよいものへの傾向を作るにあつた。従つて宿題になつたものもある。當夜は福岡の須田皖次博士、神戸の日高孝次博士、松平康雄氏、柳澤忠實氏など遠方よりの來會者もあり、在京の會員共約40名の出席者の中で懇談を重ねられた。議題は豫め會員より蒐集整理せるものを會員の手許に届けておいた。當日は遠隔のため出られなかつたが朝鮮釜山の西田敬三氏、中井甚二郎氏よりも詳細な意見を寄せられ、殆ど當時の海洋の實地研究に従ふ人々を網羅した會であつた。筆者はこの會の世話人であつた關係上、今般本誌編輯者から海洋學の進歩のためこの會の模様を書くやうに求められたので、術語に關する審議を以下に摘記することにした。誤つた點にお氣付きの御方には御注意の勞をお願い申します。

(1)海底地形の術語は國際水路會議の協定による(第1表及第2表)。海峡—瀬戸—水道、灣—浦—入江、岬、鼻、灘等の用語に關しては決定せるものはなかつた。

(2)底質(海底沈澱物より底質を一般なるものとして採用する。)

(イ)底質の略符號は海圖所載の様式による(第3表参照)。通常形容詞に小文字、名詞に大文字を用ふ。例、fs (fine sand 細砂)。

以上(1)、(2)に關しては當夜出席の水路部岸人三

郎大佐より後で會員に印刷物を配布せられた。第1表、第2表、第3表はそれに據つたものである。

(3)海深

(イ)水深、深さを觀測水層の深さ、海底深度とを區別するために、海底までの深度は海圖の示す通り「水深」を用ひることとする。觀測水層の深さは「海面下何米」或は略して單に「深さ」として表はすを可とする。

(ロ)水深何米以深或は何米以淺とし何米以上、何米以下といふ術語は用ひないことにする。

(ハ)測深器(機)とワイヤー捲揚器とは強ひて一定しない。何れでもよいことにする。測深儀は採らない。

(4)採水

(イ)ナンゼン型といふのは止めてナンゼン式採水器と唱へることとする。例、エクマン式、リゴ式採水器。

(ロ)reserving bottleのことは海水瓶或は貯水瓶(貯水瓶といふ言葉は少し語呂が悪い)を用ひることとし、採水瓶とは云はない。

(ハ)Serial Observationの譯語に就ては須田博士から提案があつたが、各層觀測、連結觀測、垂直觀測何れにも決定は見なかつた。

(5)水温

(イ)水温といひ海温とは云はないことにする。

(ロ)低温といひ冷温といふ語は用ひない。

(ハ)水温上昇下降といひ昇温、降温は誤り易いからなるべく用ひない。

(ニ)isotherm 等温に對し homotherm 同温を今の所使用する。heterohaline 異鹹, mesotherm 中暖, dichotherm 中冷, dichohaline 中淡, poikilotherm 亂温, anohaline 上鹹, anotherm 上暖, katohaline 下鹹, katotherm 下暖等之等の成層狀態に關する術語は上記の譯語を適當とするが、分り難いからやたらに使はぬこと。

(ホ)不防壓傾倒寒暖計は廢して、被壓傾倒寒暖計といふこと。

## (6) 鹽分

(イ) 鹹度、鹽分量といはないで鹽分を用ひる。

(ロ) 鹽分が大きい、小さい、或ひは高鹹、低鹹を用ひる。濃鹽、淡鹽、多鹽、少鹽、多鹹、少鹹、高鹽、低鹽とは云はないことにする。

(ハ) 比重は大きい、小さい或ひは高低を用ひ、輕比重、重比重とは云はない。

## (7) 海流

(イ) 海流瓶 drift bottle を標準語とする。

(ロ) 吹送流、風成海流、皮流は意味の異なる點もあるしするから今きめないことにする。

(ハ) 比重海流とは言はず密度流を探ることにする。

(ニ) Currentmeter (Strommesser) は潮流計を止めて測流器、驗流器といふ名にせよとの意見がかなり多かつたが、日高博士は流速計を推され、朝鮮の西田氏、水産講習所の岡田光世教授などは水産方面で久しく慣用された「潮流計」を用ひてもよいだらうとの意見もあり、尙研究討議の必要あるものとして宿題に残された。後で岡田氏から次の如き意見を寄せられた。

「潮流計」後記——筆者は日本水産學會誌に水産方面の慣用に従つてカーレントメーターを「潮流計」(A)と記載したが、その時の編輯委員側の主な理由が、「測流器」、「驗流器」等(B)では海湖で用ひる器械であることが明かでない爲に、海湖以外にも廣く研究の對象がある水産學では何の流れを測る器械か判らない」といふ點にあつたことを思ひ出した。

Carruthers のもの(「海流計」)等を例外として潮流も測るのであるから、「潮流計」は潮流を求める器械で海流も同時に判るのであると思へば(A)を誤用視するにも及ばないのではあるまいか。(岡田光世)

このやうにこの件は當時熱心な論議の對象になつたのである。

(ホ) カーレントドラッグ、潮流板、測流板、驗流浮標等を吟味して、「測流浮標」(Current float)を標準語とすることになつた。

(ヘ) 黒潮(日本海流), Kurosiwo, Kurosiwo, Japan Current.

(ト) 親潮, Oyasiwo, Oyasio (Tisima Current).

(ハ), (ト) 兩者に於て決定的なものは後日に宿題と

して留保された。小倉博士は Tuscarora 海溝を「日本海溝」と命名したと同様の意味で「日本海流」を採用したいと述べられたが、「黒潮」は一般に普及してゐるからとの異論が相當多數であつた。

(チ) 反流 (reaction current, Neerstrom) 及び逆流 (Counter Current, Gegenstrom) なる名稱はそのまゝ用ひられる。

(リ) 上昇流 Upwelling stream (Upwelling current, Auftrieb) を用ひるが、上向流は採らない。

(ヌ) Current 海潮流とし、流動、海流、潮流とはせず。

(ル) Slack water 憩流 (Still Wasser).

(ワ) 激湍, Race (Stromkabelung) (註: 筆者は潮目を Current-rip, Stromkabelung に対応するものとして用ひてゐる。) Race を競潮と譯すことはやめる。

(ヰ) Stream way 潮すぢ。

(カ) Belt of Current 流帯。

(コ) Wake 船舶工學にて伴流と譯す。(註: しかし海洋學に用ひるウエークの意味は少し異なるやうである)

(8) (イ) 水色 (colour of the sea).

(ロ) 水色番號大きい、小さい—水色悪い、良いとも用ひる。

(ハ) 透明度板を用ひセツキー板は採らぬ。

(ニ) 水色計とせず水色標準液を用ふ。

(9) 海氷 この會では氷餅、田氷、浮氷、群氷を乗て Pancake Ice 餅氷, Field Ice 野氷, Floe Ice 逸氷, Pack Ice 叢氷などの名をあげたが、其後、海軍に於て日本近海の海氷の名稱に就て國內的に統一したいとの要望に副ふ爲に、海軍大佐岸人三郎、海軍大佐門前鼎、海軍大尉矢野房雄、氣象臺技師日高孝次、水産試験場技師宇田道隆等が昭和 14 年 2 月及同年 4~5 月の間 オホーツク海及樺太海灣の海氷を觀測した結果と従來航海氣象及海洋等の仕事に掌つた人々の用ひた名稱及び外國で使用してゐる名稱等を参考にし研究協議の上に決定したものが第 4 表に示すもので、これは海氷を形の上から分類して附けたもので主に航海用語として使用されるものである。

(水路要報第 19 年第 2 號第 49 頁昭和 15 年 2 月)

(10) 「水團」Water body (Wasser Körper) 「水塊」watermass (Wasser masse) は用ひるが「水體

は使はぬ。水帶

(11) 内部波 底波は採らぬ。

(12) (イ) 風

(ロ) 海霧、

(水路用語は之)

(13) 海水化學

(イ) 檢定、

ことを伊東孝一

定、酸素定量、

養鹽定量などと

に交されたが流

(ロ) O<sub>2</sub> 定

ンクラ-氏法と

(ハ) ベー

(ニ) ハー

る。磷酸、硝酸

珪酸鹽といふ

珪酸とすること

せらる。

(ホ) Cl は

マツクレンド

アトキンス法、

する。

(ヘ) 酸素値

といふのはや

る(吉村信吉)

(ト) 溶存

解酸素、溶在

(チ) 榮養

(14) 海洋生

(イ) プラ

(ロ) プラ

net を用ひる

(ハ) 仔魚

postlarval fish

infant fish.

(ニ) ベン

(ホ) ドレ

(ヘ) pleu

造してゐる生

(ト) nekt

(チ) sten

は使はぬ。水帯、水域、海區は用ひる。

(11) 内部波 Internal wave を標準語とし内波、底波は採らぬ。

(12) (イ) 風向をとり風位は用ひぬ。

(ロ) 海霧, Fog と Mist は前者が濃, 後者が淡(水路用語は之による)。英國流と米國流と異なる。

(13) 海水化學分析

(イ) 檢定, 定量, 測定等を測定とまとめていふことを伊東孝一氏より提唱せらる。これ迄は鹽分檢定, 酸素定量, 水素イオン濃度測定 (pH 測定) 營養鹽定量などいつつてみた。これに就て議論しきりに交されたが決定せず, これも宿題になつた。

(ロ)  $O_2$  定量に於てウインクラ-法といひウインクラ-氏法といはぬことにする。

(ハ) ベーバーは pH と書く方がよい。

(ニ) ハーバー法  $N_2O_5-N$  硝酸態窒素を測定する。磷酸, 硝酸, 珪酸測定といはず磷酸鹽, 硝酸鹽, 珪酸鹽といふべきである。吉村信吉博士より珪酸を珪酸とすることは日本化學會の申合せにありと注意せらる。

(ホ) Cl はモル法, クスードセン法, pH はマックレンドン法,  $SiO_2$  はアトキンス法,  $P_2O_5$  はアトキンス法,  $N_2O_5-N$  はハーバー法によると簡稱する。

(ヘ) 酸素飽和度といふことにし酸素飽和百分率といふのはやめる。  $O_2-O_2'$  を飽差と呼ぶことにする(吉村信吉氏提唱)。

(ト) 溶存酸素 dissolved Oxygen を採用し溶解酸素, 溶存酸素の名稱を採らず。

(チ) 營養鹽の單位は  $mg/m^3$  で表はすこと。

(14) 海洋生物

(イ) プラントクソン, 浮游生物, 蟹を用ひる。

(ロ) プラントクソン網, 浮游生物網 plankton net を用ひる。

(ハ) 仔魚, 稚仔 larval fish 並に fry, 稚魚 postlarval fish, 幼魚 young fish, immature fish, infant fish.

(ニ) ベントス, 底棲生物 benthos を用ふ。

(ホ) ドレツダ dredge を用ふ。

(ヘ) pleuston プリューストン, 水面に膜を構造してゐる生物, 被膜生物。

(ト) nekton ネクトン, 游泳生物。

(チ) stenotherm 定温性, eurytherm 不定温

性, steno oxyliant 定酸素性。

(リ) 大型プラントクソン (Macroplankton), 中型プラントクソン (Mesoplankton), 小型プラントクソン (Microplankton), 微小プラントクソン (Nannoplankton)。

(15) 海洋學用語一般

(イ) 海況 (海象)。

(ロ) 觀測野帳を採用, 野簿, 現場記録手簿をとらず。

(ハ)  $\sigma_{15}$  をとり,  $S_{15}$  は採らず。

(ニ) m (米), M (哩) として區別す。

(ホ) cc/l,  $mg/m^3$ , cc をとり, cc/L,  $mg/L$ ,  $mg/l$ , c. cm はとらず。

(16) Hydrology は水理學の意味, Hydrography は海の測量記載の意味である。1934年國際水路會議で論ぜられたことを小倉博士から説明された。

(17) 西田敏三氏より次の如き希望意見があつた。併せて附記する。「現在用ひられてゐる波浪, ウネリの階級には明瞭なる一定標準なく(特にウネりに於て)記録極めて困難なり。之を波高或は波長等の大きか何かにて規準を定めることは出来ぬものか」(註: Ann. d. Hydr. 等参照)。

### 第 1 表 海底形状に關する標準術語の經過

伊太利水路部長は海底の形状に關する術語と之に對する定義を起草し英佛獨伊葡西の6箇國語を附し以て水路誌及海圖編纂の際必要なる海底及海岸の地形を表はす各國の言語中より標準術語を採用するの件を國際水路局に提案した。之に對し同局理事會は大正13年(1924)7月5日附を以て伊國提案の術語の定義に多少の修正を加へ且之に對する英佛兩國語を掲げ各國に意見を求めた。茲に於て我が水路部では此の寫を關係方面に送附して其の意見を求め尙大正13年11月22日水路部からは海軍水路大佐藤城國雄, 海軍中佐北正一郎, 海軍技師小倉伸吉及海軍大尉小西干比古, 東京帝國大學地理學教室から教授山崎直方, 同地質學教室から教授理學博士加藤武夫, 又農商務省地質調査所及東京地學協會の方面から理學博士井上禧之助其の他農商務省技師山根新次, 同大井上義近又東京高等師範學校から教授佐藤傳藏の諸氏が學士會館に會同協議して其の結果原案に多少の修正追加を加へ之に對應する邦語を選定し水路部から之を國際水路局に回答した。今國際水路局理事會提案と我が國の修正追加事項及邦語よりなる術語を表として下に掲げる。

## 甲 第1位海底地形 (Primary or first magnitude forms)

## I. 大洋周圍の海底地形 (Forms of the margins of the Ocean)

英 佛 術 語 (E)は英 (F)は佛の略字	邦 語	國際水路局提案定義	日本の修正
(イ) (E) Continental Shelf (F) Plateau Continental	陸 棚	海底に屬する大陸の周縁帯にして深 海に對し棚狀を呈し常淺線より深さ 約100尋即ち200米迄の區間を云ふ	「緩斜せる」を棚狀の前に 加ふ
(ロ) (E) Continental Talus (F) Talus Continental	陸棚崖	陸棚の邊縁の深海に臨める斜面	「多少急斜せる」を斜面の 前に追加す
(ハ) (E) Insular Shelf (F) Socle	島 棚	海底に屬する島又は群島の周縁帯にし て深海に對し棚狀を呈し常淺線より深 さ約100尋即ち200米迄の區間を云ふ	「緩斜せる」を棚狀の前に 追加す
(ニ) (E) Insular Talus (F) Talus Insulaire	島棚崖	島棚の邊縁の深海に臨める斜面	「多少急斜せる」を斜面の 前に加ふ

## II. 大洋中の凹所 (Depressions in the bottom of the High Seas)

英 佛 術 語 (E)は英 (F)は佛の略字	邦 語	國際水路局提案定義	日本の修正
(イ) (E) Basin (F) Bassin	海 盆	多少圓形橢圓形又は卵形を呈する大 凹處	
(ロ) (E) Trough (F) Dépression	舟 狀 海 盆	長く且廣き凹處にして其の側面は緩 斜す	
(ハ) (E) Trench (F) Fossé	海 溝	細長き凹處にして其の側面は急斜す	
(ニ) (E) Deep (F) Fosse	海 淵	凹處中に於ける輪廓明かなる最深區 域	

## III. 大洋中の凸所 (Elevation in the bottom of the High Seas)

英 佛 術 語 (E)は英 (F)は佛の略字	邦 語	國際水路局提案定義	日本の修正
(イ) (E) Rise (F) Seuil	海 澎	長く且廣き凸處にして其の側面を緩 斜す	
(ロ) (E) Ridge (F) Dorsale	海 嶺	細長き凸處にして其の側面は海澎の 側面に比し急斜す	
(ハ) (E) Plateau (F) Plateau	海 臺	多少平頂の凸處にして其の側面は急 斜す	

英 佛 (E)は英 (F)は佛の略字	邦 語	國際水路局提案定義	日本の修正
(イ) (E) Crest (F) Crête			
(ロ) (E) Shoal (F) Haut			
(ハ) (E) Bank (F) Banc			
(ニ) (E) Reef (F) Récif			
(ホ) (E) Pinn (F) Aigu			
(ヘ) (E) Spur (F) E'pe			

我が國よりは別  
之が定義を下の如

英 佛 (E)は英 (F)は佛の略字	邦 語	國際水路局提案定義	日本の修正
(イ) (E) Calca (F) Gou			
(ロ) (E) Fur (F) Sill			
(ハ) (E) Val (F) Vall			

尙國際水路局に  
あつた。

白耳義國、智利  
議なく國際水路局  
に隨從した。佛蘭  
氏は學術會議の物  
海洋學の國際語彙  
地學協會に該問題  
西班牙國では海洋  
博士は本問題に京

乙 第2位海底地形 (Secondary or second magnitude forms)

I. 凸處 (Elevations)

英 佛 術 語 (E)は英 (F)は佛の略字	邦 語	國際水路局提案定義	日本の修正
(イ) (E) Crest (F) Crête	海 峯	凸處の頂部を成せる狭き突起部にして其の縦断面は不規則なり	
(ロ) (E) Shoal (F) Haut-fond	洲	海底の一部にして比較的水浅きもの	「航海上危険なる岩礁にあらざる凸處にして水面上に露出する事あり」と修正
(ハ) (E) Bank (F) Banc	堆	岩質に非ざる隆起にして之を覆ふ水は比較的浅く露出することあり	「洲及礁に比し稍深處に伏在する凸處」と修正
(ニ) (E) Reef (F) Récif	礁	航海上危険なる岩石又は珊瑚礁より成る凸處にして水面上に露出することあり	
(ホ) (E) Pinnacle (F) Aiguille	尖 礁	岩石又は珊瑚礁より成る石柱にして其の頂端は比較的淺處に伏在す	
(ヘ) (E) Spur (F) E'peron	潜 岬	陸上階の陸棚又は島棚上に或は是等を越えて海底に延長せるもの	

我が國よりは別に凸處中に「海丘」なる術語を加へ 海丘 (英) Dome (佛) Dome 底面小にして急斜面を有する凸處之が定義を下の如く定むる様提議した。

II. 凹處 (Depressions)

英 佛 術 語 (E)は英 (F)は佛の略字	邦 語	國際水路局提案定義	日本の修正
(イ) (E) Caldron (F) Gouffre	海 釜	多少圓形橢圓形又は卵形を呈する小海淵	
(ロ) (E) Furrow (F) Sillon	海 渠	陸棚又は島棚に透入し海岸線に稍直角に走る裂溝	
(ハ) (E) Valley (F) Vallée	海 谷	陸上階陸棚又は島棚中に、或は是等を越えて海底に延長せるもの	

尙國際水路局に集つた各國の回答の概要は下の通であつた。

白耳義國、智利國、支那國、暹羅國、及瑞典國は異議なく國際水路局の提案に同意した。濠太利は英海軍に隨從した。佛蘭西國の水路部長 M. Rollet de l'Isle 氏は學術會議の物理的海洋學科の爲に同氏が準備した海洋學の國際語彙の原文を寄贈した。伊太利國は國際地學協會に該問題を送付して同會の決議を發表した。西班牙國では海洋學協會の副會長 Rafael de Buen 博士は本問題に就て甚だ必要にして有益なる覺書を寄

贈した。伯刺西爾國、丁抹國、英帝國、日本國、和蘭國、葡萄牙國及亞米利加合衆國 (水路部及海陸測量部) は若干の變更を提案した。埃及國、希臘國、「モナコ」國、那威國及秘露國は尙回答に接しない。(1926年4月)

1903 年至 1904 年の水路部年鑑第4卷に於て Issel 博士は術語の表を掲げ G. Ricchieri 博士は 1924 年4月「ゼノア」に開催の伊太利の地理學會議並 1926 年1月の「Rivista marittima」に此の問題を討議した。第2表は各國から回答した術語を表にしたものである。

第 2 表  
各國海底

日本國	英帝國	亞米利加合衆國 <small>海陸測量部 水陸部</small>	佛蘭西國
I. 第1位海底地形	I. Primary or First Magnitude Forms.		
1. 大洋周圍の海底地形	1. Forms of the Margins of the Ocean.		
A. 陸棚 (1)	A. Continental Shelf (1)	Continental Shelf (1)	Plateau Continental (1)
B. 陸棚崖 (1)	B. Continental Talus	Continental Talus	Talus Continental (1)
C. 島棚 (1)	C. Insular Shelf (1)	Insular Shelf (1)	Socle
D. 島棚崖 (1)	D. Insular Talus (1)	Insular Talus	Talus Insulaire
2. 大洋中の凹處	2. Depressions in the Bottom of the High Seas.		
A. 海盆	A. Basin	Basin	Bassin (1)
B. 舟狀海	B. Trough	Trough	Dépression (1)
C. 海溝	C. Trench	Trench	Fossé (1)
D. 海淵	D. Deep	Deep	Fosse (1)
3. 大洋中の凸處	3. Elevations in the Bottom of the High Seas.		
A. 海嶺	A. Rise	Rise	Seuil (1)
B. 海嶺	B. Ridge	Ridge	Dorsale
C. 海台	C. Plateau	Plateau (2)	Plateau
II. 第2位海底地形	II. Secondary or Second Magnitude Forms.		
1. 凸處	1. Elevations		
A. 海峯	A. Crest	Crest	Crête
B. 洲 (1)	B. Shoal	Shoal (1)	Haut-fond (1)
C. 堆 (1)	C. Bank (1)	Bank (1)	Banc (1)
D. 礁 (1)	D. Reef (sugg. also Sunken reef)	Reef	Récif (1)
E. 礁尖	E. Pinnacle	Pinnacle	Aiguille
F. 海脊	F. Spur	Spur	Eperon
2. 凹處	2. Depressions		
A. 海盆	A. Caldron	Caldron	Gouffre (1)
B. 海溝	B. Furrow	Furrow	Sillon
C. 海谷	C. Valley	Valley	Vallée

(1) 異なりたる定義又は修正追加の提議するもの。(2) 合衆國(海陸測量部)にて "extreme" なる語の追加を提議するもの。

地形・統  
伊太利

Piattaforma Cont.  
Zoccolo Continen.  
Scarpa Continen.  
Piattaforma Insul.  
Zoccolo Insulare  
Bassin  
Avvallamento Co.  
Fossa  
Fondo abissale

Dorsale  
Dosso  
Platea

Cresta  
Secca  
Banco  
Seagliò Scoglie.  
Cupola Guglia  
Sprone

Conca  
Solco  
Valle Sommer.  
加も提議するもの。

葡萄牙

Planalto Conti.  
Socalco

Bacia  
Depressao  
Ravina  
Fossa

Soleira  
Dorso  
Planalto

Crista  
Baixo  
Banco  
Recife  
Aguilha  
Esporao

Caldeira  
Solco  
Valle

2 表  
海底

地形術語

西國	伊太利國	亞爾然丁國	伯刺西爾國	丁林國
Continental (1) Continental (1) ulaire (1) (1) xtreme" 26語の連	<p>Plattforma Continentale Zoccolo Continentale Scarpa Continentale Plattforma Insulare Zoccolo Insulare Scarpa Insulare Basino Avvallamento Conale Fossa Fondo abissale</p> <p>Dorsale Dosso Platea</p> <p>Cresta Secca Banco Scogliò Scogliera Cupola Guglia Sprone</p> <p>Conca Solco Valle Sommersa</p>	<p>Plataforma Continental Talud Continental Plataforma Insular Talud Insular</p> <p>Hoyaà Hoyo Hondonada Foso Fosa</p> <p>Loma Lomo Meseta</p> <p>Cresta Bajo Banco Piedra (one rock) Arrecife (several rocks) Bayo afarallanado Cuna</p> <p>Caldera Cano Valle</p>	<p>Planalto Continental Sacco</p> <p>Bacia Depressao Ravina Fossa</p> <p>Socalco Dorso Planalto</p> <p>Cresta Baico Banco Recife Agulha Esporao</p> <p>Caldeira Sulco Valle</p>	<p>Fastlands-Sokkel ◎ Fastlands-Affald ◎ -Sokkel ◎ -Affald ◎</p> <p>Bassin or Bekken Tordybning or Lavning Fende Dybeste Sted or Grub</p> <p>Bank or Haevning Ryg Plateau or Hojdedrag</p> <p>Kam Grund or Flak Banke Rev Klippespids Udlober</p> <p>Hul Fure Dyb</p>
邦國	葡萄牙國	西班牙國	瑞典國	
(海 嶺) (海 壁) ai E (海 島 海 堤) i Pi (海 島 海 堤) (海 壟) (海 凹) (海 壕) (海 溝) Pò (海 底 平 坡) Pò (海 底 穿 坡) Vuang (海 底 高 原) (陸 峯) (陸 嶺) ( 岸 ) ( 嶺 ) (陸 嶺) (海 嶺) (陸 形 底) (海 溝) (海 谷)	<p>Planalto Continentale Socalco</p> <p>Bacia Depressao Ravina Fossa</p> <p>Soleira Dorso Planalto</p> <p>Crista Baixo Banco Recife Agulha Esporao</p> <p>Caldeira Sulco Valle</p>	<p>Planicie Continental Zocalo</p> <p>Hoya Hondonada Foso Fosa</p> <p>Loma E spinazo Meseta</p> <p>Cresta Bajo Banco Arrecife</p> <p>Caldera Cano Valle</p>	<p>Kusplata Kontinental Slutning</p> <p>Bassin Djupranna Djup Djup</p> <p>Rygg Troskel Plata</p> <p>Kam Grund Bank Klipprev</p> <p>Rygg</p> <p>Kitteldjup Ranna Dal</p>	

加も提議するもの。◎丁林は Continental 及 Insular Shelf (Talus) を不必要と思考せり。

## 第3表 底質略字

(水路部海圖第6011號A  
水路部刊行海圖々式(甲)による)

b	.....blue	.....藍色
bl	.....black	.....黑色
br	.....brown	.....褐色
bk	.....broken	.....破碎
c	.....coarse	.....粗
ca	.....calcareous	.....石灰
Ck	.....chalk	.....白堊
ch	.....chalk	.....チョコレート色
Cn	.....cinders	.....燼滓
Cy	.....Clay	.....粘土
Co	.....coral	.....石花(珊瑚)
d	.....dark	.....暗
Di	.....diatom	.....珪藻
f	.....fine	.....細
Fr	.....foraminifera	.....有孔虫
G	.....gravel	.....礫
Gl	.....globigerina	.....グロビゲリナ
gn	.....green	.....緑
Gd	.....ground	.....海底
gy	.....gray	.....灰色
h	.....hard	.....堅
l	.....large	.....大なる
Lv	.....lava	.....熔岩
lt	.....light	.....薄き
M	.....mud	.....泥
Md	.....madrepore	.....石蠶(石珊瑚)
Mg	.....manganese	.....滿庵
Ml	.....marl	.....泥灰岩
Ms	.....mussels	.....貽貝
Oy	.....Oysters	.....牡蠣
Oz	.....ooze	.....軟泥
P	.....pebbles	.....圓礫
Pt	.....pteropod	.....翼足類
Pm	.....pumice	.....浮石
R	.....rock	.....岩
Rd	.....radiolaria	.....放射虫
rd	.....red	.....紅色
S	.....sand	.....砂
Sc	.....scorice	.....熔岩滓
so	.....soft	.....軟

Sh	.....shells	.....殻
sk	.....speck, speckled	.....斑點
Sn	.....shingle	.....粗礫
sm	.....small	.....小なる
Sp	.....sponge	.....海綿
St	.....stones	.....石
sf	.....stiff	.....硬
sy	.....sticky	.....粘著質
T	.....tufa or tuff	.....凝灰岩
v	.....volcanic	.....火山質
w	.....white	.....白色
Wd	.....weed	.....草
y	.....yellow	.....黄色

## 第4表 日本近海海水の名稱

1. 氷子(晶氷 ice crystal).....數粒乃至數種の大きさを有する薄板又は針狀の結晶にして結氷の最初に生ずるものなり。
2. 腹氷.....油を流したるが如く薄き膜状をなし氷子の互に氷着せしめて海面を覆ふものなり。鉛色若くは灰色を呈す。
3. アイスクリーム狀海水(Slush).....灰色を帯びグリース狀又は軟泥狀に氷子の集合せるものなり。粘性を有す。
4. 氷殻(ice rind).....氷殻硝子狀の薄き板狀の氷(厚さ5cm以内)の海面に皮殻をなすものなり。彈性を有し破碎するとき硝子の破るゝときの如き音を發す。
5. 軟氷(Sludge ice).....人又は海驢等を乗せ得ざる軟氷の總稱なり。
6. 混合軟氷(Sludge).....アイスクリーム狀海水と軟氷の破片とか混合したるものなり。
7. 蓮葉狀海水(Pancake ice).....蓮葉狀をなし其縁邊まくれあがり白色を呈し海面に浮泛す。其の直径10cm位より數米に及ぶ。
8. クラゲ狀海水(外國名なし).....僅かに海面上に浮ぶ小なる板狀の海水群なり。恰も海月の群棲せるが如し。
9. 板狀軟氷(Young ice).....蓮葉狀海水若くは混合軟氷が互に氷着して板狀をなせるものなり。厚さ5cm乃至20cm。
10. 平坦海水(Level ice).....板狀軟氷の發達せるものにして厚さ20cm以上の平坦なる海水をいふ。

11. 氷野(Ice field).....ものをいふ。(少)
12. 氷原(Ice fi).....ふ。
13. 氷丘(Hum).....氷片又は氷塊のふ。
14. 氷丘脈(Pres).....丘の脈狀をなし
15. 氷湖.....氷野無き部分をいふ
16. 氷盤.....板狀破壊せられ浮泛
17. 氷岩(Grow)

## 水産

大村秀雄  
鯨—そのA 54  
生物学より見た  
的發展・捕鯨の實  
源の維持と捕鯨  
最新の知識を科  
の本であつて同相川廣  
海洋A 5  
内外の最新資料  
の全貌を明にせ  
物に興味を有す  
すゝめたい。

同著

水産資源に關す  
系を樹立せんと

11. 氷野 (Ice field) ……廣き海面に氷の張り詰めたるものをいふ(少くとも其の廣袤1平方哩以上)。
12. 氷原 (Ice field) ……氷野の一層大なるものをいふ。
13. 氷丘 (Hummocked ice) ……氷野又は氷原上に氷片又は氷塊の積み重りて丘状をなせるものをいふ。
14. 氷丘脈 (Pressure ridge) ……氷野若は氷原上に氷丘の脈状をなして連りたるものをいふ。
15. 氷湖 ……氷野若は氷原中相當の廣さを有する氷の無き部分をいふ。
16. 氷盤 ……板状軟氷若しくは平坦海水が風波等のため破壊せられ浮泛するものなり。
17. 氷岩 (Growlers) ……海面上1米以上の高さを有する氷塊の浮泛するものをいふ。
18. 流氷 (Drift ice) ……運動の自由を有する海水の多數浮泛するものをいふ。
19. 流氷帯 ……流氷の密集して帶状をなせるものをいふ。
20. 流氷原 ……流氷の一面に存在する區域をいふ。
21. 群氷 (Pack ice) ……氷盤氷岩等の多數群集して存するものをいふ。
22. 氷量 ……測者其の附近の海面を見渡し海水が海面を覆ふ面積の海面に對する割合をいふ。全面氷ならば10とし海面の約3割が氷ならば3とするが如し(氷量は海水の名稱に非ざるも觀測及報告に不可欠のものなるにつき附記す)

## 水産社・新刊

大村秀雄・松浦義雄・宮崎一老共著

### 鯨—その科學と捕鯨の實際

A 5 判 320 頁 ¥ 4.00 丁 20

生物学より見たる鯨・鯨の種類とその特徴・捕鯨業の史的發展・捕鯨の實際・鯨體の利用・南氷洋の地誌・鯨族資源の維持と捕鯨業の取締……等、鯨及び捕鯨に關する最新の知識を科學的に正確に且つ平易に述べた一般向の本であつて同時に専門家を益することも少くない。

相川廣秋著 (水産試験場技師・農博)

### 海洋浮游生物学

A 5 判 280 頁 ¥ 3.50 丁 20

内外の最新資料により浮游生物学の發達を綜括して其の全貌を明にせんとしたもので、海洋及び海洋浮游生物に興味を有する人々の心覺えとして座右の参考におすべし。

同著 水産資源學 ¥ 3.00 丁 20

水産資源に關する從來の研究を綜合して學としての體系を樹立せんとしたものである。

丸山國雄著 (文部省圖書監修官)

### 日本北方發展史

B 6 判 330 頁 ¥ 2.50 丁 15

松前藩の蝦夷地經營から帝政ロシアの東漸南下政策による北方の脅威とそれに対する幕府の對策を豊富な史料と正確な考證により研究せるもので、その間に活躍せる幾多の先覺者の事蹟と日露交渉の顛末を詳述す。北邊漸く多事ならんとする折柄、敢て識者の一讀をすむ。

森 有 義 著

### ソヴェート聯邦と北氷洋

B 6 判 360 頁 ¥ 2.00 丁 15

「ソ聯邦は如何にして北氷洋を開拓したか」といふ著者の解説と、ソ聯の北氷洋航路開拓上重要な探檢航海漂流等につき、關係者の手記、報告、回想記等を流暢な筆で譯出したもので、本書により讀者は北氷洋の概念と北氷洋航行の本格的問題についての確なる知識を得ることが出来ると思ふ。

田中茂穂著 (理學博士)

### 隨筆集 動物學教室

B 6 判 280 頁 ¥ 1.80 丁 15

東京市麴町區丸ノ内3ノ8・振替東京15850番